

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：わおわお江ヶ崎保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：藤平 悦子	定員（利用人数）：60（70）名
所在地：〒230-0002 横浜市鶴見区江ヶ崎町21-6	
TEL：045-582-8011	ホームページ： http://www.waowao.or.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2015年04月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 わおわお福祉会	
職員数	常勤職員：16 名 非常勤職員：13 名
専門職員	（専門職の名称）： 名
	保育士：17名 看護師：1名
	管理栄養士：1名 栄養士：1名
	幼稚園教諭：1名
施設・設備 の概要	（居室数）
	居室：0歳児室 設備：調理室
	居室：1歳児室 設備：調乳室
	居室：2歳児室 設備：遊戯室
	居室：3歳児室 設備：医務室
	居室：4歳児室 設備：事務室
	居室：5歳児室 設備：乳児トイレ兼沐浴室
	設備：幼児トイレ
	設備：エレベーター
設備：園庭	

③理念・基本方針

<理念>

「ほめて、みとめて、はげまして」

～やる気を育て自分で考え行動できる子どもを育てる～

<基本方針>

1. 保護者に寄り添い、安全安心な保育を実践します
2. 子どもを地域と支え合い、社会に貢献します
3. 職員がやりがいを感じ、充実感に満ち、情熱を持って働ける職場にします
4. 保護者、職員、地域に選ばれる園を目指します

<保育目標>

1. 豊かな人間的ふれあいを通じて“人と人との信頼”の価値と尊さを身につけます。
2. 子どもの社会性を培い、人間性を育むうえでの“正しい習慣”を身につけます。

3. 面白いね！ふしぎだね！すごいね！という体験を積み重ね“創造性の芽生えとやる気”を育てます。
4. “もし・かず・ことばへの興味や関心”を育てます。
5. 人と人とのつながりを大切に“元気で明るく、笑顔であいさつできる子ども”を育てます。
6. やさしい気持ちを養い、忍耐力・正義感・自制心をもつ、豊かな心を育てます。
7. 命の尊さを知らせ、慈しむ心と感謝の心を育てます。

④施設・事業所の特徴的な取組

＜わおわお江ヶ崎保育園の特徴的な取組＞

1. 系統的な研修計画のもとに、資質向上・キャリアパスを見据えた人財育成
2. 保育指針を根底に、保育理念・園ビジョンに繋がる一貫性継続性のある保育実践
3. 担当制保育における乳幼児期に重要なアタッチメント・応答的な保育の実践
4. ICTを活用し、業務効率を高め、ワーク・ライフ・バランスを推進
5. 定期的なヒヤリングやアンケートを行い、職場環境の充実化を図る

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年06月04日（契約日） ～ 2025年03月21日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2019年度）

⑥総評

【わおわお江ヶ崎保育園の概要】

●わおわお江ヶ崎保育園（以下、当園という。）は、社会福祉法人わおわお福祉会（以下、法人という。）の運営です。法人は、運営方針に「選ばれる保育園」を掲げ、横浜市に6園、川崎市に1園、東京都大田区に1園の認可保育所を運営しています。また、学童保育「ワオキッズ」も川崎・横浜に15施設展開しています。保育理念「ほめて・みとめて・はげまして」の下、やる気を育て、自分で考えて行動できる子どもを育てる保育を提唱し、子育て支援の観点から、法人系列各園で地域の「子育てステーション」を目指しています。

●当園は、JR南武線「矢向駅」から徒歩15分程の住宅街に位置しています。位置的には、川崎市に近いのですが、鶴見川の東側にあり飛び地的に横浜市鶴見区となっています。矢向駅その他、新川崎駅への利便性もあり、マンションや一戸建て、集合住宅等が建ち並び、保育園も点在する等、子育て世代が多い環境です。園舎は鉄筋コンクリート2階建て、法人のテーマカラーでもある原色系のビビッドな色を基調とした外観・内装です。学童保育「ワオキッズ江ヶ崎園」も同施設内にあり、主に矢向小学校・新鶴見小学校の学童を受入れています。

●当園の定員は60名、0歳～5歳児までの保育を実施し、現在70名の園児が在園しています。園舎内は明るく広々として開放感があり、1階に0歳～1歳児の保育室、2階に2歳～5歳児クラスがあり、屋上園庭も有し、プール遊びが楽しめます。また、1階のルーフバルコニーには砂場が設置されています。全職員は、保育理念「ほめて・みとめて・はげまして」の下、子ども一人ひとりの成長に寄り添い、「おもしろいね!」、「すごいね!」と声をかけながら、「できた!」を一緒に喜び、みんなの笑顔が溢れる保育園です。

◇特長や今後期待される点

1. 【子ども主体の保育の推進】

保育理念「ほめて、みとめて、はげまして」の下、職員は常に「子どもが自ら考えたり判断して、意欲的に行動していたか」、「その子らしさが大切にされ、安心して自分の思いや考えを表現していたか」を保育実践の振り返りの中で共有しています。また、園ビジョンに「一人ひとりを大切にする子ども主体の保育」を掲げ、日々の保育の中で子どもの表情、遊びへの意欲等を観察すると共に、子どもの話を聞きながら、子ども自身の満足を把握するように努めています。当園では0歳～2歳児クラスまで担当制保育を実施し、継続的に特定の保育士が応答的に関わることで、子どもの表情の変化を見逃さず、日々の成長に気づき、保護者と共に子どもの成長を喜び合う機会になっています。幼児クラスの各行事への取組では、子どもの興味・関心から、子どもの心「やってみたい!」、「挑戦してみたい!」を大切にし、理念に沿って言葉かけや援助を行い、子どもが「できた!」と喜ぶ成功体験につなげています。正に保育理念「やる気を育て自分で考え行動できる子どもを育てる」につながると言えます。今回の利用者（保護者）アンケートでも「一人ひとりに合わせた対応」、「子どもの気持ちに寄り添っている」、「丁寧な対応」、「子どもを大切にしている」等々の意見が多く寄せられ、保育に対する保護者の満足を窺われます。

2. 【丈夫な身体作り】

当園では法人が推奨する保育・教育（知育、英会話、体育、食育、リズム遊び）に取り組んでいます。中でも知育では、ガウディア保育理論から7つのカテゴリー（言語・流暢・数・空間・知覚・推理・連想記憶）を教材プリントで学習するスタイルを3歳児から行っていました。子どもの状況を鑑みて、机上の遊びをプリント学習ではなく、見て、触れて、感じる五感を大切に教材や遊びへと転換しています。園の周りには自然豊かな公園があり、その日の目的や年齢構成によって散歩コースを選び、季節の変化を感じさせ伸び伸びと身体を動かして楽しんでいます。また、屋上園庭を活用した体育遊び（縄跳び、竹馬、プール等）にも取り組んでいます。調査日は、1歳児が歓声を上げながら、保育士と駆け回って楽しんでいます。雨の日でもホールを活用し、体操・ダンス・リズム遊びを十分に行い、活動を通して汗をかき、お腹が空くリズムが作れるよう取り組んでいます。また、年間を通して裸足保育を取入れ、土踏まずの形成を促し、バランスや五感を養うことにつながっています。インフルエンザの流行時期の最中、園内は感染もなく、各年齢の子どもたちは元気一杯で活気に溢れていました。

3. 【食育活動の推進】

法人給食ビジョン及び園の給食ビジョンを基に、栄養士が食育年間計画を策定し、季節の食材や行事食の提供、クッキング活動、食事のマナーの習得等、子どもの発達に応じた取組を進めています。各年齢の保育士との連携も良く、月1回の給食会議では、栄養士、調理員、保育士が捉えた子どもの姿を通して「食事が楽しい!」と感じられるよう、それぞれの視点で意見を交わし、献立や調理法の見直しに反映しています。当園の献立は、栄養士が法人共通（郷土食）を取入れながら、独自で作成しています。旬の食材を使用するため地域の6ヶ所の業者から食材（米・肉・魚・牛乳・野菜・調味料等）を仕入れています。また、年長児対象に「おこめ屋さん」に米を買いに行き、玄米を精米機に入れて白米になる過程を見学し、買った米を研いで炊いています。調査日も「お当番」の子どもたちが上手にお米を研いで、炊飯器にセットし、炊き立ての美味しいご飯を給食で食べていました。地域の特定業者「やおやさん」の協力を得た「納品確認」では、野菜の名前・量・重さ・色・匂い等を体感した取組がユニークです。給食のモットーに「会いに来る給食室」を掲げ、朝・夕に子どもと保護者が給食室に顔を出す取組も好評です。

今回の利用者（保護者）アンケートでも「給食メニュー（栄養のバランス）が良い」、「給食室の先生が食の相談に乗ってくれる」等の意見が寄せられ、満足回答率87%と高い評価を得ています。

4. 【人材確保・育成への取組】

当園の運営上の課題として、「人材確保と育成」が挙げられています。この課題は、当園に限らず、保育園運営上に共通するものと思われます。当園は若い保育士が多く、明るく活気に溢れています。今回の利用者（保護者）アンケートにも「先生方が明るい」、「先生同士の仲が良い」、「アットホームな雰囲気」等の意見が多く寄せられ、職員のヒヤリングからも職員間のコミュニケーションが良いと感じられました。園長は、職員との対話を通して日々の保育を語り合い、「子どもの心を1番に考える園」でありたいという思いを伝え、チームワークを高めるよう取組んでいます。また、保育業務のICT化を図り、ワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい環境作りに努めています。法人全体でも「働きやすい職場」になるよう中・長期ビジョンの1つに「人材確保と人材育成、職場定着に向けた取組の体制強化」を掲げています。法人が目指す「選ばれる保育園」に向けて、保育士からも選ばれる園となるよう今後の取組に期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 わおわお江ヶ崎保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取組の感想》

開園10年目の節目に第三者評価を受審できたことで、目まぐるしく進んでいく日々の中にも園としての小さな成長の積み重ねを感じることができました。法人の理念として掲げている「保育所保育指針を根底にわおわおの保育理念を実現する園」、目の前の子どもにとっての最善を尽くすため「日々自己啓発、研鑽をし続け、互いを高め合う園」であるために、今まで取組んできたことや今後も取組んでいくことについて改めて職員間で共通認識を図ることができ、とても有意義であったと感じています。今回、経験年数別のチームに分けて園評価に取組み、職員間での認識や捉え方の差が感じられたため、今後はより園全体で共通認識の持ち方を工夫し、目指す状態を具体的に掲げ、強みを更なる強みとして磨いていきたいと考えています。そして、今後も引き続き「地域で選ばれる園」を目指し、質の向上に取組んでいきたいと思えます。

《評価後取組んだこととして》

1.利用者アンケート集計・分析結果をもとにグループディスカッションを行い、特に優先的に改善に取組む必要性が高いことを抽出。安全面の強化、衛生的な環境づくり等、来年度の事業計画に繋げた。

2. 職員全体会議にて、評価報告書の内容を共有。「子どもを真ん中にして、職員間で連携を図り、目の前の子どもにとっての最善を考え、子どもの思いを大切にしたい保育を実践しようと日々取組んでいる」ことを改めて認識することができた。今後も「子ども主体の保育」について継続的に取組み、更に理解を深めていくと共に、地域の子育て支援を推進する園として、園の特長も打ち出していけるよう取組んでいくことについて話し合った。

3. 令和6年度園の評価として保護者に周知。今年度の振り返りから来年度の取組としてどのように繋げていくかを共有することで、園への理解が深まる機会にした。

⑧第三者評価結果
別紙2のとおり